

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400077		
法人名	あかり株式会社		
事業所名	グループホームあかり(西ユニット、東ユニット)		
所在地	静岡県島田市宮川町2349-6		
自己評価作成日	平成26年9月8日	評価結果市町村受理日	平成26年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kami=true&jiyosvoCd=2295400077-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>拘束感のない開放的な施設を目指しています。 毎日の活動はユニット内だけでなく、玄関ホール、多目的スペース(活動及び研修室)を日常的に利用したり、近所への買い物、季節を味わう外出など多様な活動を提供しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>島田駅より950m、表通りから一步入った閑静な住宅街に溶け込むように事業所はあります。古民家を改修した通所介護と居宅介護支援に始まり、地域住民の期待を担って平成25年7月に立ち上げ一年が経過しました。事務室を奥に退け、ユニット入口をエントランスホールと直結させた設計からは自由度の高い暮らしが見て取れます。統制の取れた自治会組織のもと地域防災訓練にも参加し、また災害弱者受入れを視点に入れての使命感ももっています。開設間もないこともあり課題もありますが、地元商店街での買い物を常とした住み慣れた環境づくりとともにターミナルケアまで向き合う真摯な姿勢が印象的でした。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員採用時に文書にて研修し、共有をしている。 ・毎月のユニット会議で確認している。	『自らあかりとなって輝き、すべての人が自分らしく暮らせる地域づくり』—開設当初、職員に伝えた代表の想いが法人理念となっています。採用時に説明し、ユニット会議、全体会議では立ち返る原点として意識づけを図っています。	職員間で理念を具現化する話し合いを期待いたします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・町内会に所属し、会費納入、回覧板、年2回の防災訓練に参加している。 ・施設のイベントのお知らせや、近所の商店への買い物などを日常に行っている。	近隣から野菜が届けられ、側溝清掃、地域防災訓練に出向いています。公民館行事には自治会長からお知らせがあり、デイサービスとの交流や傾聴、ドッグセラピー、マジックのボランティアも訪れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・開かれた相談窓口のお知らせを行っている。パンフレット、掲示板、運営推進会議など。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・活かしている。	市長寿介護課、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、医師をメンバーとし偶数月に定期開催できています。全家族に案内を出し、時間帯は参加しやすい夜間に設定しています。誠意ある事故報告に予防策まで討議する様子を議事録から確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・実践者研修、管理者研修の受講、状況報告、相談をしている。	運営推進会議には毎回出席があります。窓口訪問の折は疑問点にも丁寧に答えてもらえ、ボランティア情報も得ています。不定期ですが介護相談員の来所もあり利用者の話にじっくりと耳を傾けてもらっています。	議事録を届けるなど窓口訪問の機会を増やし、密な協力関係が構築されることを期待いたします。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施錠について、行っていない。	玄関はセンサーもなく夜間を除いて施錠もありません。ユニット入口はエントランスホールに直結しており自由度の高さが見て取れます。対象となる具体的な行為は理解できていますが、スピーチロックが課題であり勉強会を予定しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・年間研修計画に入れ周知。拘束の具体的な意味と理解を図るよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要な方については、その関係者と話し合うことにより、理解を深める努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時に時間をかけて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱の設置を計画している。 ・運営推進会議を全員のご家族にお知らせし、ご意見を伺っている。	運営推進会議には家族参加があり、職員の顔と名前が一致しないとの意見から玄関に顔写真を掲示する運びとなりました。面会や受診支援での対話を重んじ、毎月の請求書には写真を添えて様子を報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ユニット会議 ・代表者会議 ・スタッフ懇親会 等	壁ひとつ隔てたユニットでありながら個々に活動することが多かったため、職員の懇親会をはじめ食事作りを一緒に行った結果、全体会議での意見交換も活性化し、事業所としての一体感が高まっています。	個人面談など職員の定着を図る取組みを期待いたします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・税理士、労務士の関与による助言等により適切な整備を図るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・資格取得、各研修への参加の奨励、協力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・今後の課題としている。 ・余裕のあるシフト組のできる人材確保を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・管理者、リーダー、担当スタッフの役割として個別なケアを行うことで、本人の安心の確保を図るよう指導している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・担当者会議やケアプランの説明を行い、家族への理解を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・早急な入所を進めるのではなく、それまでのサービスからの無理のない移行を図る為の方法(お試しを繰り返す等)をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・共にすること(買い物、選択、掃除、調理等)で一方的な受身の立場に置かないよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・体調変動のお知らせ、病院受診の協力、ホームの行事への参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人、ご近所の知人が訪問しやすいよう連絡をしたり、面談の場の提供をしている。	馴染みの美容院から迎えがきたり、またスポーツ新聞を毎朝楽しみに待つ人もいます。得意な編み物の指導に意気揚々とデイサービスまで通ったり、活け花を趣味とする人には家族や職員が花を持ち寄って継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・個人にこもりがちな人への働き掛け、レクへの参加の促し、利用者同士の交流の支援等に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院となった方への訪問、家族相談への対応。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご本人のこれまでの生活歴、環境を詳しくアセスメントする。 ・個別に寄り添い、思いを聴き取るように努める。	入居時のアセスメントを基に食事やレク、様々な機会を捉えて意向を把握しています。夕食後から就寝前のリラックスした時間はたくさんの話を聴くことができます。得られた内容はカードデックスに記載して共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・1日の過ごし方、心身状態の把握は行えている。有する力等の把握については努力が必要。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・話し合いは行うように努めているが、介護計画への反映については努力が足りない。	日頃の関わりから本人や家族の想いに耳を傾け、各ユニットの計画作成担当者が職員意見を集約してプラン化し、書面をもって家族に説明して意見や要望を聴いています。ユニット会議で評価を行い実践を振り返っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・情報共有を図っているが、介護計画の見直し等には努力が足りない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・鬱的な方への気分転換の試み。外出、陶芸、編み物、デイサービスへの訪問など工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティア(傾聴、ドッグセラピー、そば打ち、音楽等)の柔軟な受け入れ、参入を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・そのように支援している。	全員が個々のかかりつけ医を受診しています。家族の付き添いを基本としていますが、無理な場合は職員が同行しています。重度化して通院が困難となった場合は総合病院から往診医の紹介を受けて切り替えた例もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・そのように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・そのように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・そのように努めている。	ターミナルケアに向き合う事業所として契約時に説明しています。終末期を迎えた利用者があり、繰り返しの話し合いによる意向確認と往診医、訪問看護連携のもと最期を支えています。泊り込む家族に簡易ベッドを備え、直面する職員の気持ちにも寄り添っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・図るよう努めているが、全員への実践が出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・宮川町防災会との協力は出来ている。	消防署職員立ち合いを含め年2回の訓練と火災報知器点検が実施されています。共助の意識で地域防災訓練にも参加し協力体制を築いています。有事には避難地へ出向かず待機して、災害弱者の受け入れも視点に入れ備蓄を進めています。	防災訓練に地域からの協力が得られることを期待いたします。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・努めるように図っているが、充分とは言えない。	接遇研修としての機会はありませんが、ワンフロアで家族のような会話が交わされるため、親しみを込めた中でも「トイレの声かけは小声で」「利用者頭越しの会話はしない」といったルールを重視するよう伝えていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・出来るだけ受け入れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来るだけ努めているが、全員の希望に沿っているかについては努力が足りない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・支援している。意欲低下された方への働き掛けがもっと必要。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・試みは度々行っているが、毎日の食事の中ではもっと工夫が必要。	食材は一緒に買い物に行き、朝・昼は利用者メニューを考えて調理しています。野菜の皮むきや刻みは自然に手が動き役割分担されています。嗜好調査も行われ、お刺身が人気でお祝い事には盛り合わせが登場しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・努力はしているが、個々の状態、力、習慣に合わせるということには努力が必要。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・出来るだけ行っているが、全員の方へのケアが充分とは言えない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・行っているが、夜間のケアの際、排泄の失敗を防げないことがある。	排泄チェック表と生活リズムを参考にパターンを把握し、トイレでの排泄を基本としています。暑い夏場は綿パンツを使用して心地よさを実感してもらっています。尿量を計測し水分摂取量と比較することで脱水予防にも配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・行っているが、本人の好みもあり、完全とは言えない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・出来るだけ柔軟に行っているが、行事等があると、そこに合わせるなどやむを得ないこともある。	週2回以上を目安とし時間帯や毎日入りたい希望、入浴剤や好みのシャンプーにできるだけ対応しています。入浴できない時は足浴や清拭を行い、拒否にはタイミングや声かけで工夫しています。ゆずや菖蒲の変わり湯もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・指示と状態に合わせての服薬を行うよう努めているが、服薬ミスがあり、完全とは言えない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・行っている。体調により行えないこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・本人の体調に配慮しながら行うよう努めている。	近くの商店街に出かけて店先に並ぶ魚や野菜、和菓子で季節を体感しています。定期的な外出計画はありませんが、少年合唱団の発表を見て『やまの家』へ出かけて交流を楽しんだりひまわり畑を満喫した日もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・出来るだけ快適さを重視しているが、更に利用者の声を聞き取る必要がある。	玄関、テーブル、洗面所には季節の花が活けられ、開放感ある高い天井と太い梁、木目を活かした床にぬくもりが感じられます。歩行練習もできる長い廊下の先には活動室があり、窓から眺める田園風景と小学校が利用者の心を癒します。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・施設内の外のスペースも利用しながら工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・工夫をしている。	エアコンとカーテンが備えつけです。ベッドや筆筒、行李、家族の写真、テレビ、携帯電話といった持ち込みがあります。自室でゆっくり日記をつけたり編み物に精を出す人もあり、本人の好みに合わせた配置をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・更に工夫をする必要がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員採用時に文書にて研修し、共有をしている。 ・毎月のユニット会議で確認している。	『自らあかりとなって輝き、すべての人が自分らしく暮らせる地域づくり』—開設当初、職員に伝えた代表の想いが法人理念となっています。採用時に説明し、ユニット会議、全体会議では立ち返る原点として意識づけを図っています。	職員間で理念を具現化する話し合いを期待いたします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・町内会に所属し、会費納入、回覧板、年2回の防災訓練に参加している。 ・施設のイベントのお知らせや、近所の商店への買い物などを日常に行っている。	近隣から野菜が届けられ、側溝清掃、地域防災訓練に出向いています。公民館行事には自治会長からお知らせがあり、デイサービスとの交流や傾聴、ドッグセラピー、マジックのボランティアも訪れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・開かれた相談窓口のお知らせを行っている。パンフレット、掲示板、運営推進会議など。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・活かしている。	市長寿介護課、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、医師をメンバーとし偶数月に定期開催できています。全家族に案内を出し、時間帯は参加しやすい夜間に設定しています。誠意ある事故報告に予防策まで討議する様子を議事録から確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・実践者研修、管理者研修の受講、状況報告、相談をしている。	運営推進会議には毎回出席があります。窓口訪問の折は疑問点にも丁寧に答えてもらえ、ボランティア情報も得ています。不定期ですが介護相談員の来所もあり利用者の話にじっくりと耳を傾けてもらっています。	議事録を届けるなど窓口訪問の機会を増やし、密な協力関係が構築されることを期待いたします。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施錠について、行っていない。	玄関はセンサーもなく夜間を除いて施錠もありません。ユニット入口はエントランスホールに直結しており自由度の高さが見て取れます。対象となる具体的な行為は理解できていますが、スピーチロックが課題であり勉強会を予定しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・年間研修計画に入れ周知。拘束の具体的な意味と理解を図るよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要な方については、その関係者と話し合うことにより、理解を深める努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時に時間をかけて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱の設置を計画している。運営推進会議を全員のご家族にお知らせし、ご意見を伺っている。	運営推進会議には家族参加があり、職員の顔と名前が一致しないとの意見から玄関に顔写真を掲示する運びとなりました。面会や受診支援での対話を重んじ、毎月の請求書には写真を添えて様子を報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ユニット会議 ・代表者会議 ・スタッフ懇親会 等	壁ひとつ隔てたユニットでありながら個々に活動することが多かったため、職員の懇親会をはじめ食事作りを一緒に行った結果、全体会議での意見交換も活性化し、事業所としての一体感が高まっています。	個人面談など職員の定着を図る取組みを期待いたします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・税理士、労務士の関与による助言等により適切な整備を図るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・資格取得、各研修への参加の奨励、協力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・今後の課題としている。 ・余裕のあるシフト組のできる人材確保を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・管理者、リーダー、担当スタッフの役割として個別なケアを行うことで、本人の安心の確保を図るよう指導している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・担当者会議やケアプランの説明を行い、家族への理解を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・早急な入所を進めるのではなく、それまでのサービスからの無理のない移行を図る為の方法(お試しを繰り返す等)をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・共にすること(買い物、選択、掃除、調理等)で一方的な受身の立場に置かないよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・体調変動のお知らせ、病院受診の協力、ホームの行事への参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人、ご近所の知人が訪問しやすいよう連絡をしたり、面談の場の提供をしている。	馴染みの美容院から迎えがきたり、またスポーツ新聞を毎朝楽しみに待つ人もいます。得意な編み物の指導に意気揚々とデイサービスまで通ったり、活け花を趣味とする人には家族や職員が花を持ち寄って継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・個人にこもりがちな人への働き掛け、レクへの参加の促し、利用者同士の交流の支援等に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院となった方への訪問、家族相談への対応。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご本人のこれまでの生活歴、環境を詳しくアセスメントする。 ・個別に寄り添い、思いを聴き取るように努める。	入居時のアセスメントを基に食事やレク、様々な機会を捉えて意向を把握しています。夕食後から就寝前のリラックスした時間はたくさんの話を聴くことができます。得られた内容はカードデックスに記載して共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・1日の過ごし方、心身状態の把握は行えている。有する力等の把握については努力が必要。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・話し合いは行うように努めているが、介護計画への反映については努力が足りない。	日頃の関わりから本人や家族の想いに耳を傾け、各ユニットの計画作成担当者が職員意見を集約してプラン化し、書面をもって家族に説明して意見や要望を聴いています。ユニット会議で評価を行い実践を振り返っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・情報共有を図っているが、介護計画の見直し等には努力が足りない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・鬱的な方への気分転換の試み。外出、陶芸、編み物、デイサービスへの訪問など工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティア(傾聴、ドッグセラピー、そば打ち、音楽等)の柔軟な受け入れ、参入を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・そのように支援している。	全員が個々のかかりつけ医を受診しています。家族の付き添いを基本としていますが、無理な場合は職員が同行しています。重度化して通院が困難となった場合は総合病院から往診医の紹介を受けて切り替えた例もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・そのように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・そのように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・そのように努めている。	ターミナルケアに向き合う事業所として契約時に説明しています。終末期を迎えた利用者があり、繰り返しの話し合いによる意向確認と往診医、訪問看護連携のもと最期を支えています。泊り込む家族に簡易ベッドを備え、直面する職員の気持ちにも寄り添っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・図るよう努めているが、全員への実践が出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・宮川町防災会との協力は出来ている。	消防署職員立ち合いを含め年2回の訓練と火災報知器点検が実施されています。共助の意識で地域防災訓練にも参加し協力体制を築いています。有事には避難地へ出向かず待機して、災害弱者の受け入れも視点に入れ備蓄を進めています。	防災訓練に地域からの協力が得られることを期待いたします。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・努めるように図っているが、充分とは言えない。	接遇研修としての機会はありませんが、ワンフロアで家族のような会話が交わされるため、親しみを込めた中でも「トイレの声かけは小声で」「利用者頭越しの会話はしない」といったルールを重視するよう伝えていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・出来るだけ受け入れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来るだけ努めているが、全員の希望に沿っているかについては努力が足りない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・支援している。意欲低下された方への働き掛けがもっと必要。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・試みは度々行っているが、毎日の食事の中ではもっと工夫が必要。	食材と一緒に買い物に行き、朝・昼は利用者メニューを考えて調理しています。野菜の皮むきや刻みは自然に手が動き役割分担されています。嗜好調査も行われ、お刺身が人気でお祝い事には盛り合わせが登場しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・努力はしているが、個々の状態、力、習慣に合わせるということには努力が必要。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・出来るだけ行っているが、全員の方へのケアが充分とは言えない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・行っているが、夜間のケアの際、排泄の失敗を防げないことがある。	排泄チェック表と生活リズムを参考にパターンを把握し、トイレでの排泄を基本としています。暑い夏場は綿パンツを使用して心地よさを実感してもらっています。尿量を計測し水分摂取量と比較することで脱水予防にも配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・行っているが、本人の好みもあり、完全とは言えない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・出来るだけ柔軟に行っているが、行事等があると、そこに合わせるなどやむを得ないこともある。	週2回以上を目安とし時間帯や毎日入りたい希望、入浴剤や好みのシャンプーにできるだけ対応しています。入浴できない時は足浴や清拭を行い、拒否にはタイミングや声かけで工夫しています。ゆずや菖蒲の変わり湯もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・指示と状態に合わせての服薬を行うよう努めているが、服薬ミスがあり、完全とは言えない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・行っている。体調により行えないこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・本人の体調に配慮しながら行うよう努めている。	近くの商店街に出かけて店先に並ぶ魚や野菜、和菓子で季節を体感しています。定期的な外出計画はありませんが、少年合唱団の発表を見て『やまの家』へ出かけて交流を楽しんだりひまわり畑を満喫した日もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・出来るだけ快適さを重視しているが、更に利用者の声を聞き取る必要がある。	玄関、テーブル、洗面所には季節の花が活けられ、開放感ある高い天井と太い梁、木目を活かした床にぬくもりが感じられます。歩行練習もできる長い廊下の先には活動室があり、窓から眺める田園風景と小学校が利用者の心を癒します。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・施設内の外のスペースも利用しながら工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・工夫をしている。	エアコンとカーテンが備えつけです。ベッドや筆筒、行李、家族の写真、テレビ、携帯電話といった持ち込みがあります。自室でゆっくり日記をつけたり編み物に精を出す人もあり、本人の好みに合わせた配置をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・更に工夫をする必要がある。		